

令和2年度における取組

令和2年7月28日

岡山県環境文化部環境管理課

1 各種啓発

稲わらの有効利用（土づくりに活用）等を啓発

目的

稲わらの有効利用による
土づくりを推進
（野焼きからの転換を促す）

取組可能な方から**実践**
ナッジの考えを取り入れ
（ヒトの行動をそっと後押し）

[進め方] 環境部局と農業関係者の連携が必須
稲わら等有効利用連携推進会議の設置

啓発方法

➤ チラシの配付・講習会

- ・ 野焼きからすき込みへの転換を促すチラシの配付
- ・ 既存 J A 等の講習会を活用

[対象地域] 岡山市、早島町、倉敷市

➤ 新聞紙面、ラジオ等

- ・ 野焼きによるPM2.5の濃度上昇など一般的な広報

[対象地域] 県内全域

地域を限定する
理由は後述

2 稲わら有効利用の農家支援

稲わら分解促進剤の購入を支援（補助）

目的

稲わらのすき込み時に散布する
分解促進剤の購入費を補助し、
稲わらの野焼きから有効利用
への転換を**応援**

地域限定の**モデル事業**
(岡山市南区・早島町)

地域を限定する
理由は後述

補助内容

[対象者] 岡山市南区、早島町内の
圃場に水稻の作付を
行った農家

[補助率] 購入費の**1/2（上限）**

[対象品目] **石灰窒素**など

[申請期間] 令和2年8月～12月

[窓口] 県庁 環境管理課

3 事業の効果検証（1 / 3）

なぜ、効果を検証する必要がある？

① 稲わら分解促進剤の購入補助が本当に有効なのか不明
（稲わらを野焼きする理由は、人によって様々）

➤ **補助以外の方法が有効となる可能性も**

② エビデンス(根拠)に基づく政策立案が求められる時代

➤ **政策の有効性を高め、行政の信頼を確保**



**事業の成果（補助、啓発）を分析し、
より有効かつ効率的な方策を提案する**

3 事業の効果検証（2 / 3）

効果検証の方法

➤ 地域別に行う事業を分け、**野焼き率の経年変化**を調査

岡山市（南区） 早島町	岡山市（北・中・東区） 倉敷市	左記以外
① PM2.5と野焼きに係る一般広報（新聞、ラジオ等）		
② 稲わら有効利用の重点啓発（チラシ、講習会）		
③ 稲わら分解促進剤の購入補助		

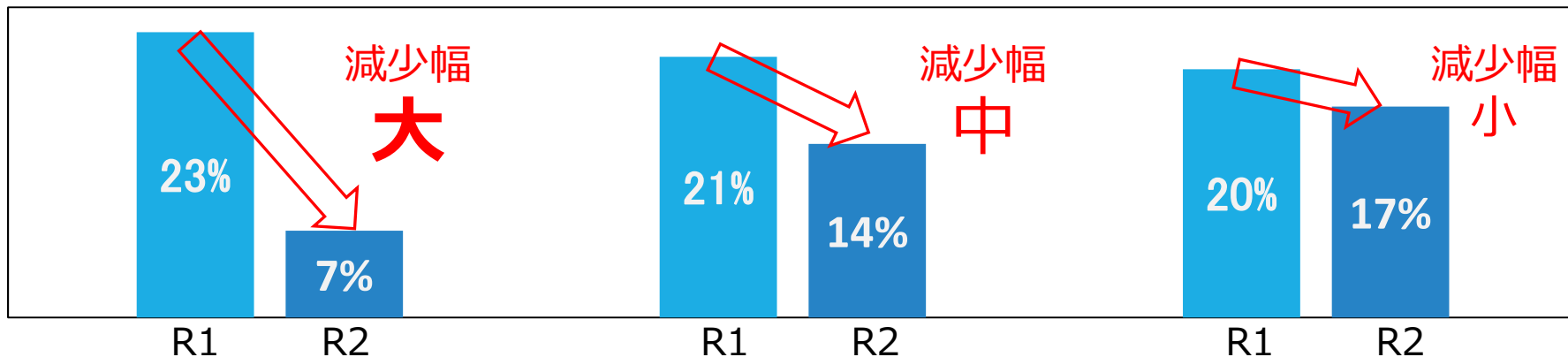
3 事業の効果検証（3 / 3）

効果検証の結果（イメージ）

①PM2.5と野焼きに係る一般広報（新聞、ラジオ等）	
②稲わら有効利用の重点啓発（チラシ、講習会）	
③稲わら分解促進剤の購入補助	

野焼き率の変化の度合い

※野焼き率はイメージです



4 稲わらの野焼き率調査

県南の主な地域で稲わらの野焼き率を調査

目的

稲わらの処理状況の現状を客観的に把握

【調査地域】

岡山市、早島町、倉敷市、総社市、瀬戸内市

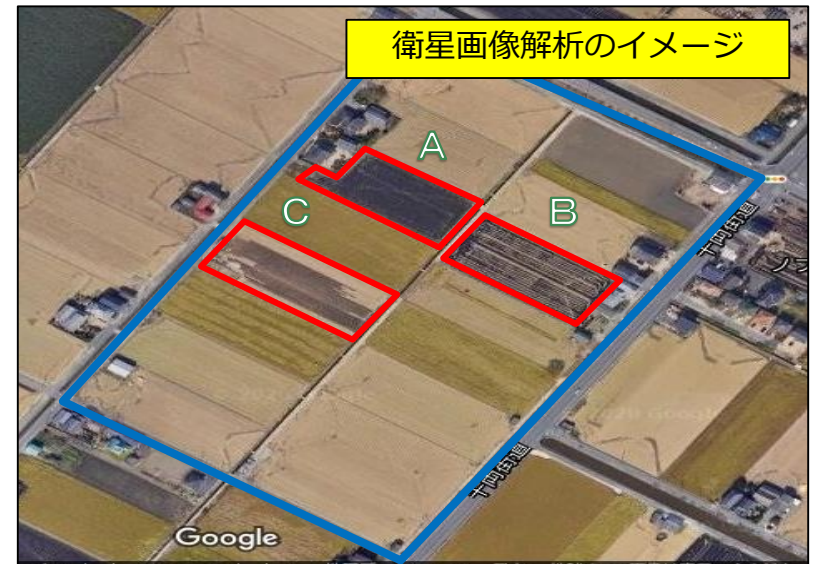


地域別の特徴を把握
(今後の事業展開に活用)

方法

野焼きされた圃場を衛星画像で判定

【調査時期】 R1(2019)年 11月頃
R2(2020)年 11月頃



稲わらの野焼き率調査結果（令和元年分・速報）

令和元年（2019年）における地区別の野焼き率（速報） 【調査対象時期：令和元年11月】

	水田面積	野焼き面積	野焼き率
岡山市北区	1,705 ha	59 ha	3.5 %
岡山市中区	857 ha	39 ha	4.6 %
岡山市東区	3,814 ha	195 ha	5.1 %
岡山市南区	4,503 ha	1,407 ha	31.3 %
倉敷市	3,978 ha	497 ha	12.5 %
早島町	143 ha	13 ha	9.1 %
総社市	2,167 ha	107 ha	5.0 %
瀬戸内市	1,679 ha	56 ha	3.4 %
計	18,850 ha	2,376 ha	12.6 %

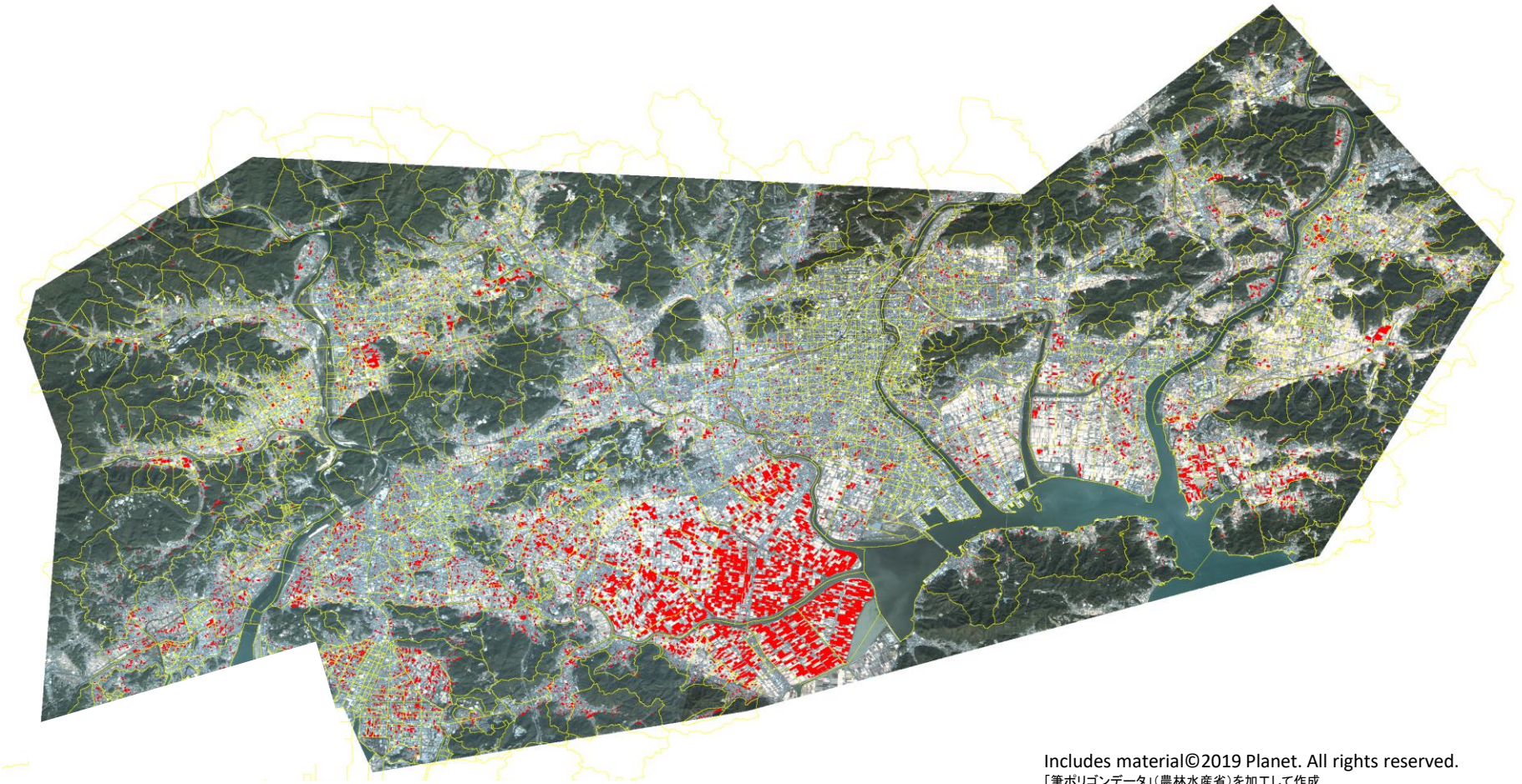
※ 岡山市南区・中区、早島町以外は、主に稲作が行われている地域を調査対象としている。

※ 水田面積は、農水省の筆ポリゴンから算出しているため、統計資料との乖離あり。

※ 詳細は解析中のため、今後、数値が変わる可能性あり。

稲わらの野焼き率調査結果（令和元年分・速報）

令和元年（2019年）の野焼き状況（衛星画像解析結果）



Includes material©2019 Planet. All rights reserved.
「筆ポリゴンデータ」(農林水産省)を加工して作成
「平成27年国勢調査町丁・字等別境界データ」(総務省)を加工して作成